

市域で実施している事業



まごころ便：移動販売車の運行



災害時協力井戸（270 か所）



同報系防災行政無線（212 か所）



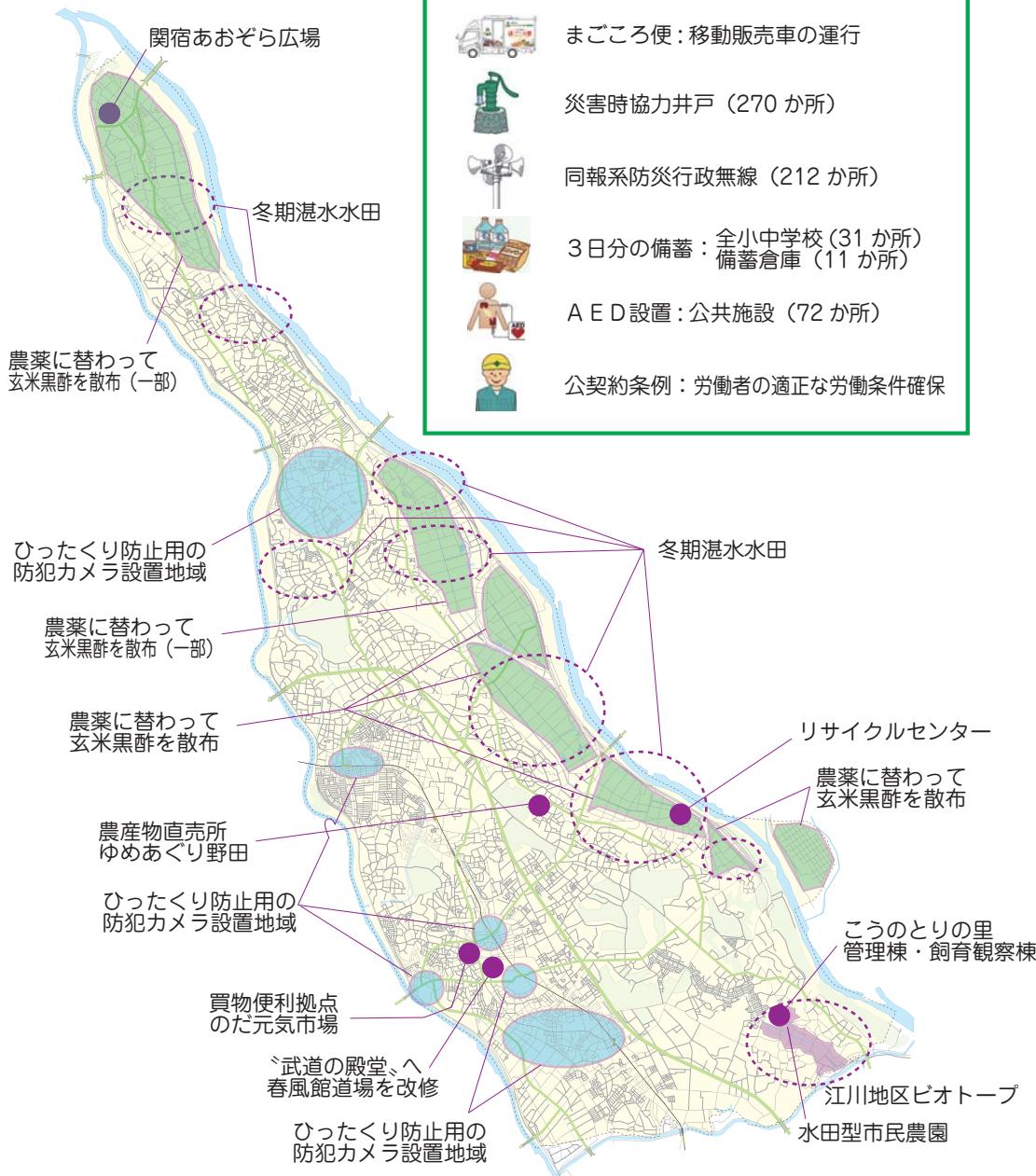
3日分の備蓄：全小中学校（31 か所）
備蓄倉庫（11 か所）



A E D 設置：公共施設（72 か所）



公契約条例：労働者の適正な労働条件確保



や化学肥料をできるだけ減らす取り組みを行ってきました。18年から農薬の空中散布を廃止し、替わって21年から玄米黒酢の散布を

始め、農家・酪農家でそれぞれ処分に困っていた牛ふんともみ殻や稲わらをごみにせず、剪定枝堆肥と混合し、有機堆肥として再利用

しました。

25年度時点で、玄米黒酢散布は、市内水田の約50パーセント、堆肥も市内農家825人の方に、利用登録

いただきました。

また、雑草抑制の効果があつた冬期湛水水田も約6ヘクタールで実施するなど、

市内全域での環境に配慮した取り組みの結果、江川地区ではホテルが

戻り、絶滅していたはずの植物が復活してきました。

生き物がたくさん棲めるような環境づくり

は、市内だけでは限界があります。

広域的な観点で取り組む必要があることから、江川地区の取り組みを拡大させ、利根運河に繋げ、さらに県境を越えて、利根川・江戸川流域に広げるエコロジカルネットワークの形成に努め、22年には、茨城県、千葉県、埼玉県、栃木県の27市町村を集めて、関東を生き物がたくさん生きていける場所に作り替えるための組織を市が率先して設立しました。

この広域的な生物多様性の取り組みのシンボルとなるよう、昔から人の身近に暮らし、里山の田んぼの食物連鎖の頂点にあるコウノトリの飼育を、市では24年に始めました。

今後は、繁殖を進め、近い将来には野生復帰を目指し放鳥する予定で

生態系の頂点にいるコウノトリが繁殖できる環境は、餌となる多種多様な生物がその地域に生息していけることの証となるので、人間にとっても安全安心な環境といえます。

農薬や化学肥料に頼らない農